

内閣総理大臣・安倍晋三殿
防衛大臣・小野寺五典殿

またも起こったオスプレイ部品落下事故に抗議し、オスプレイと米軍ヘリの飛行停止、普天間基地の即時運用停止・閉鎖・撤去求める

2018年2月10日 日本平和委員会

2月9日、米軍普天間基地所属のオスプレイの右側エンジンの空気取り入れ口の部品が落下し、沖縄県うるま市伊計島の大泊ビーチに流れ着いているのが見つかった。これは、縦70センチ、横100センチ、重さ13キロの部品であり、直撃すれば人命にかかわる事故を起こすものだった。在沖米海兵隊は、この部品落下事故が8日に発生したことを、沖縄防衛局からの問い合わせで、9日に初めて認めた。相次ぐオスプレイや米軍ヘリの事故が続く中で、米軍がこれを隠蔽しようとした疑いが濃厚である。このような態度は、断じて許すことはできない。

伊計島では昨年1月に同基地所属のヘリが不時着。先月6日にも米軍ヘリが不時着。これに抗議する伊計島区民集会も開かれ米軍機の上空の飛行停止を求めている。同基地所属のオスプレイは一昨年12月に名護市安部に、昨年6月にオーストラリアに墜落し、不時着事故も相次いでいる。その重大事故率は同基地配備以来倍増している。もはやオスプレイと県民が共存できないのは明らかである。

私たちは、オスプレイと米軍ヘリの飛行停止と総点検。なによりも、オスプレイの撤去と普天間基地の即時運用停止、閉鎖・撤去を断固として求めるものである。これは2月1日に沖縄県議会も全会一致で決議している要求であり、まさに沖縄県民ぐるみの要求となっている。安倍政権が「沖縄県民に寄り添い」というのなら、ただちにこの要求に応えるべきである。